世界遺産ニュース No.19

2015年9月

～世界遺産登録を目指す、県内の構成資産の紹介　第8回「野崎島の野首・舟森集落跡」～

発行：長崎県教育委員会

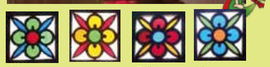
会いにきてね♪ これからの世界遺産に！

旧野首教会　県指定有形文化財

旧野首教会は、１９０８年（明治４１年）に、小値賀町の野崎島に暮らす人々の中の17の家族が共に力をあわせて資金を集め、建築家の鉄川与助さんに依頼して建てた教会です。

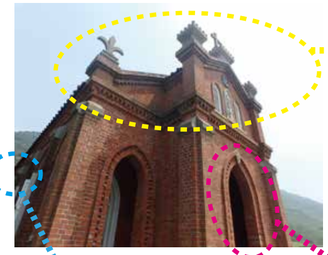
昭和４０年代頃から島を離れる人々が増え、野崎島は無人島になりました。海を臨む小高い丘に、小さいながらも堂々と立つ教会の姿は、今も島の歴史を静かに語り続けています。また、集落景観も国の重要文化的景観である「小値賀諸島の文化的景観」として、小値賀町によって保存・管理されています。

教会の内部は、リブ・ヴォールト天井（別名こうもり天井）によるアーチと、しっくいの白い壁に包まれています。木の枠で花の形がつくられたステンドグラスにより光が入ると、教会内は一瞬で色とりどりの光に満たされます。



窓ごとにガラスの色使いも鮮やかです。

教会の特徴について



上部には、西洋の城のような様式、左右にはフランスのユリの飾りを取り入れています。

白い波形の飾りが赤の壁に映えます。

並べ方にも独特の変化をつけています。

鉄川与助さん（1879 - 1976）

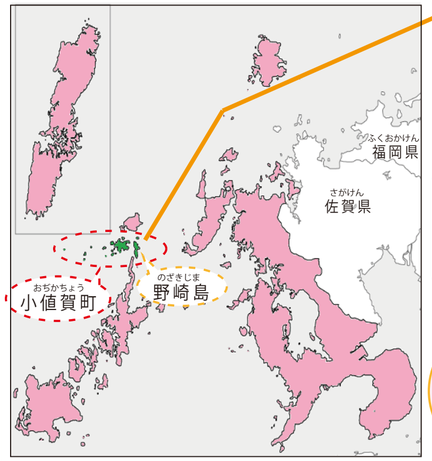
旧野首教会は、鉄川与助さん（現在の新上五島町出身）が手がけた最初のレンガ造りの教会です。正面上部の西洋的な風格や、入口の立体的なレンガの配置、軒先部分の波形の飾りなどが印象的です。

新しいものを作りあげようとする、鉄川さんの意気込みが感じられますね☆

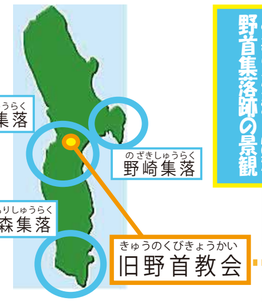
野崎島の野首・舟森集落跡について

注目！！ 教会をふくめた野崎島についてみてみよう♪

長崎県の地図



野崎島の地図



みなさん、こんにちは!!
野崎島は、以前、野首、舟森、野崎の3つの集落があり、人々は農業や漁業で暮らしていました。

小値賀町教育委員会の平田さんです。詳しいお話を取材させていただきました！

野首集落跡の景観

野崎島は、島全体が山地で平地がほとんどなく、人が生活するには厳しい環境でした。そのため、島に移住した人々は、人と牛の力だけで土地を切り開き、さらに石積みで補強した敷地に段々畑や教会を築きました。

野首集落では、教会をいろいろな場所から眺めることができます。それは、教会が集落の人々の暮らしを見守るように建てられているからです。

舟森集落跡

人口が多い時は、およそ６５０人の人々が協力し合って暮らしていましたが、生活は厳しく、その後、島を離れていくことになります。

無人島になった今も、畑や道などかつての暮らしの跡がそのまま残されています。

一つのまとまりとしての集落跡と教会を、「大切な文化財」として、今ある姿のまま、将来に守り伝えていく方法をみんなで考えていくことが大きなテーマです。

写真左は、野崎島の青い海と白浜、右は島に約５００頭ほど生息している野生の鹿です。

旧野首教会の近くには、野崎島の自然を体験しながら学べる宿泊施設もあります！

ぜひ、小値賀町にいらしてください！ みなさんをお待ちしています！！

平田さん、ご協力ありがとうございました♪♪

案内は美龍でした♪

☆「世界遺産ニュース」について☆
バックナンバーは、長崎県教育委員会の学芸文化課のホームページをご覧ください!!